

「チーム学校」における教育支援・教育協働に関わる大学カリキュラムの現状
～十文字学園女子大学の場合～

文責：小森 伸一

1. はじめに：十文字学園女子大学の概要

十文字学園女子大学は、埼玉県に本部を置く私立大学である（所在地：埼玉県新座市菅沢 2-1-28）。1922（大正 11）年に創立された文華高等女学校を前身とし、1996（平成 8）年に設立された歴史ある女子大学となる。本稿執筆時点の 2019（令和元）年度現在、下記（表 1）の 1 学部 9 学科で編成されており、約 3600 人の学生が学んでいる（大学院・留学別科を含む）。翌年 2020（令和 2）年度からは、新たな時代に必要とされる 3 学部 9 学科に改組される¹。

表 1 十文字学園女子大学の組織改編：2020 年度より
<2019（令和元）年度までの学部・学科編成>

1 学部	全 9 学科
人間生活学部	・幼児教育学科・児童教育学科・人間発達心理学科 ・人間福祉学科・健康栄養学科・食物栄養学科・文芸文化学科 ・生活情報学科・メディアコミュニケーション学科



<2020（令和 2）年度改組における学部・学科編成>

3 学部	全 9 学科
人間生活学部（4 学科）	・健康栄養学科・食物栄養学科・食品開発学科・人間福祉学科
教育人文学部（4 学科）	・幼児教育学科・児童教育学科・心理学科・文芸文化学科
社会情報デザイン学部（1 学科）	・社会情報デザイン学科

本稿のテーマとなる教育支援・教育協働に係る教職課程は、現行では「幼児教育学科」および「児童教育学科」が中心となっている。一方で 2020（令和 2）年度から始動する新学部・学科の方をみると、「教育人文学部」（4 学科：幼児教育学科・児童教育学科・心理学科・文芸文化学科）を基盤に展開されていくものと考えられる。また、教員免許状の取得だけをみれば、次項にて後述するように他学部・他学科においても可能である（現行組織において）。

2. 当該大学における教職課程の状況と「チーム学校：教育支援・協働」の観点

1) 教職課程について

教職課程は「幼児教育学科」および「児童教育学科」の 2 学科、特に「児童教育学科」が主として担ってきたといえるであろう。当該大学のホームページによれば、幼児教育学科の学びの特色について次のように紹介されている²。

「子どもから学ぶ 子どもとともに学ぶ」をテーマに保育者の育成をめざします。幼児教育学科設立以来 50 年の伝統を活かした地域社会との連携によって、実践的な学びを実現する、充実した学習カリキュラムと多様な実習を用意しています。子どもや保護者から信頼される保育者の育成をめざす十文字から、毎年多くの卒業生が幼稚園教諭・保育士になる夢を叶えています。

一方、児童教育学科については次の通りである³。

小学校教諭一種免許状を軸に免許の複数取得が可能になりました。小学校教諭が第一目標ですが、幼稚園教諭、特別支援学校教諭免許取得のための科目が卒業単位として認められ、中学校・高等学校英語教諭の免許を取得するための科目編成も充実しました。これにより小学校教諭、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、中学校・高等学校英語教諭の免許を複数取得する授業のカリキュラム計画や時間割が立てやすくなりました。

このように、児童教育学科では複数の教員免許状の取得が可能となっているが、上掲 2 学科に加え、

他学科においても教員免許状の取得が可能である。現行の大学案内にもとづき、すべての学科を対象にして、教員免許状も含めた「取得できる資格」および「主な就職先」の2観点から整理して作表したものが表2となる。なお、教諭免許状（取得できる資格）および教職に関わる職種（主な就職先）については太文字で示している。また本稿のテーマとなっている教育支援に関わる職種と考えられるものには下線を引いた。

小学校教員の養成は、上掲した児童教育学科の学びの特色を見てもわかるように、当該学科が担ってきた。各学年の構成人数は90名ほどとなるが、近年では小学校教員になるのは例年その約半数とのことである。しかし表2の主な就職先をみても分かるように、小学校教員に加えて幼稚園教諭、特別支援教諭、高等学校教諭を合わせると8割強の所属学生が教職についていることになる。

表2 当該大学における「取得できる資格」および「主な就職先」（学科別）

学科名	取得できる資格	主な就職先	
幼児教育	・幼稚園教諭一種免許状 ・保育士資格	[幼稚園教諭] 44.3% [営業・販売] 5.1% [一般事務] 2.2% [その他] 1.7%	[保育士] 42.3% [総合職] 2.2% [サービス] 1.1%
児童教育	・小学校教諭一種免許状 ・幼稚園教諭一種免許状 ・特別支援学校一種免許状(知・肢・病) ・中学校教諭一種免許状(英語) ・高等学校教諭一種免許状(英語)	[小学校教諭] 47.4% [特別支援教諭] 14.0% [一般事務] 5.3% [高等学校教諭] 1.8%	[幼稚園教諭] 19.3% [社会福祉事務員] 7.0% [サービス] 3.4% [総合職] 1.8%
人間発達心理	・養護教諭一種免許状 ・中学校教諭一種免許状(保健) ・高等学校教諭一種免許状(保健) ・認定心理士資格 ・こどもサポーター(こころ支援) ・ピアヘルパー	[一般事務] 22.3% [養護教諭] 20.2% [社会福祉事務員] 8.5% [SE・PG等] 6.4%	[営業・販売] 21.3% [サービス] 9.6% [総合職] 6.4% [その他] 5.3%
健康栄養	・中学校教諭一種免許状(保健体育) ・高等学校教諭一種免許状(保健体育) ・栄養教諭二種免許状 ・健康運動指導士認定試験受験資格 ・栄養士免許 ・フードコーディネーター3級	[栄養士] 39.8% [サービス] 16.1% [総合職] 4.3% [中学校教諭] 1.1%	[営業・販売] 21.5% [一般事務] 11.8% [SE・PG等] 3.2% [その他] 2.2%
文芸文化	・中学校教諭一種免許状(国語) ・高等学校教諭一種免許状(国語) ・学校図書館司書教諭 ・学芸員資格	[営業・販売] 45.5% [SE・PG等] 6.1% [その他] 9.0%	[一般事務] 36.4% [図書館司書] 3.0%
食物栄養	・栄養教諭一種免許状 ・管理栄養士国家試験受験資格 ・栄養士免許 ・フードスペシャリスト認定試験受験資格 ・健康運動指導士認定試験受験資格 ・第一種衛生管理者免許	[栄養管理士・栄養士] 61.1% [営業・販売] 15.5% [SE・PG等] 1.6% [商品開発] 0.8%	[一般事務] 8.7% [総合職] 6.3% [サービス] 5.6% [その他] 0.8%
生活情報	・高等学校教諭一種免許状(情報) ・上級情報処理士 ・ウェブデザイン実務士 ・医療コンピュータ技能検定(医療事務) ・MOS/インターネット検定 ・ITパスポート ・日商簿記検定 ・繊維製品品質管理士(TES) ・リテールマーケティング(販売士)	[一般事務] 40.5% [SE・PG等] 32.4% [営業・販売] 17.6% [サービス] 4.1% [総合職] 2.7% [その他] 2.7%	

2) 教職課程カリキュラムにおける「チーム学校」時代の教育支援・協働の観点

当該大学においては、「チーム学校」(教育支援・協働)を意識した教員の資質能力を育成するための特化したカリキュラムがとくに設定されているわけではない。しかし、「チーム学校」の視点を意識した学科の枠を超えた連携は必要かつ重要であることは認識しているとのことである。

たとえば、令和2年度から新設される教育人文学部内の文芸文化学科では、日本語教育が開始され

る。これは、近年増えてきている日本語がうまく扱えない外国人児童の課題に応じた教育支援の観点が含まれた取り組みの一端である。教育人文学部は、他には幼児教育、児童教育、心理の3学科を交えた全4学科によって構成されるが、この新設される教育系学部の4学科において、今日的教育課題を見据えながら学科を横断した連携を深めていくことができるであろう。

また、現行のカリキュラムに目を移せば、教育支援・協働に関する授業科目として「教職入門A」（1年必修）および「学校経営と学校図書館」（2年必修／選択）の2つ授業が挙げられる。前者は児童教育学科に、後者は文芸文化学科内の司書教諭課程に開設されている。前者の「教職入門A」では、9回目に「チームとしての学校の在り方」が設置されており、これはまさに「チーム学校」が主題となっている単元といえるであろう。現代の教育課題としての地域協働の必要性について取り上げている。

また後者の「学校経営と学校図書館」の授業は、主として司書教諭資格をとるための必修授業で、学校図書館経営の基本的事項を学ぶ科目である。この授業では、単に学校内での図書室運営を学ぶのではなく、これからのその運営においては、司書教諭は図書館での学びが学校外部となる地域と学校をどのように結び付けていくことの視点を含んでいる。そのような学校と地域との協働的な点が包含されていることから、授業は講義を基本とするものの、学生同士のディスカッションやグループワークなどの演習的、いわばアクティブラーニングの方法も取り入れられている。

3) 教育支援職への志望、就職実績

当該大学において教育支援職にかかわる学科としては、上掲「表2」で取り上げた学科に加えて「人間福祉学科」が挙げられるであろう。表3は、表1と同様に人間福祉学科における「取得できる資格」および「主な就職先」を示している（教育支援職に関わる資格および職種と考えられるものには下線を引いている）。当該学科は、「社会福祉・介護福祉コース」と「社会福祉・保育コース」の2コースからなる。

なお、ここまでに取り上げていない学科に「メディアコミュニケーション学科」がある。本稿のテーマにはほとんど関係が見られなかったからであるが、参考までに当該学科についても表3に付記した。

表3 人間福祉学科における「取得できる資格」および「主な就職先」

学科名	取得できる資格	主な就職先
人間福祉	《社会福祉・介護福祉コース》 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>社会福祉士</u> (国家試験受験資格) ・ <u>社会福祉主事</u> (任用資格) ・ <u>身体障害者福祉司</u> (任用資格) 	[福祉専門職] 73%
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護福祉士</u> (国家試験受験資格) ・ <u>児童指導員</u> (任用資格) ・ <u>知的障害者福祉司</u> (任用資格) 	[保育士] 17.5%
	《社会福祉・保育コース》 <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>社会福祉士</u> (国家試験受験資格) ・ <u>社会福祉主事</u> (任用資格) ・ <u>介護職員初任者研修</u> ・ <u>知的障害者福祉司</u> (任用資格) 	[営業・販売] 4.7%
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>保育士資格</u> ・ <u>児童指導員</u> (任用資格) ・ <u>身体障害者福祉司</u> (任用資格) 	[総合職] 1.6%
		[一般事務] 1.6%
		[その他] 1.6%

(参考)

メディア コミュニケ ーション	・ 上級情報処理士	・ ウェブデザイン実務士	[営業・販売] 35%
	・ CGクリエイター	・ WEBデザイナー検定	[サービス] 25%
	・ 画像処理エンジニア検定	・ マルチメディア検定	[一般事務] 15%
	・ ニュース時事能力検定		[総合職] 5%
			[その他] 20%

実際のところ、就職先一覧リストによると（平成29・30年度の2年間実績：ヒアリング時に頂戴した資料）、幼児教育学科（2人）、児童教育学科（6人）、人間発達心理学科（15人）、文芸文化学科（1人）、人間福祉学科（37人）からの卒業生が教育支援職に正規職員として就職している。記載した人数（括弧内）をみても分かるように、人間福祉学科からの出身者がもっとも多く、次いで人間発達心理学科の卒業生が教育支援職に就いている。

職種としては「児童指導員」、「放課後児童支援員」、「社会福祉士／福祉職」、「(就労・障害者等)支援員」、「生活支援員」、「相談職」、「総合職(学校事務等)」、「図書館司書(非常勤)」、「医療ソーシャルワーカー」などである。中でも、「児童指導員」や「放課後児童支援員」がもっとも多い。

また、ここまでの検討においてあまり関係性が見られなかったため、参考までに表3に加えた「メディアコミュニケーション学科」ではあるが、近年の学校におけるプログラミング教育やAIを活用した学習や指導法、それらと並行して急速に拡大する学びのICT化を鑑みると、今後においてはこの「メディアコミュニケーション学科」で学修される内容が教育支援職と大きな関わりを持つようになって

くることが予想される。現行の「メディアコミュニケーション学科」は、新体制では「生活情報学科」が一緒になって、「社会情報デザイン学部・社会情報デザイン学科」となる。そうなることで、この学科については、情報教育の観点をもった教育支援や指導に関わることのできる人材養成の期待が一層高まるのではないだろうか。

3. まとめにかえて：教育方法における特徴的な取り組みからの示唆

当該大学における教員養成の特徴的な取り組みとして、地域の教師を地域で育成することを標榜した「学校インターンシップ」の実施が挙げられる。これは、4年次の教育実習以前にも、近隣6市（埼玉県：新座市・志木市・朝霞市・和光市／東京都：清瀬市・和光市）の自治体との連携において、1年次から小学校にインターンとして入り、学校現場や教職への理解を深める機会をもつ取り組みである。

活動回数は、1年生は年間10回程度、2年・3年生はそれぞれ15回プラスアルファ、そして4年次の4週間の教育実習へとつなげる一連のプロセスとなっている（基本的に、3年生までに活動した小学校で実習を実施）。そうすることで、教職へのモチベーションの維持向上や、認識の深化へつなげていくねらいがある。事実、児童教育学科の学生の進路において、小学校教諭以外の教職種を含めれば80%強の卒業生が教員となっている実績は（表2）、この取り組みによるところも大きいのではないだろうか。授業との関連については、「学校インターンシップ」のみでの授業開設はされていないが（単独での単位認定はない）、各学年でそれを科目の学習内容に位置づけ、授業の一環として活動する形となっている。またその成果を、4年前期の「教職応用演習」の授業にて振り返り、教育実習での目標をより明確なものとするにつなげて役立てている⁴。

当該大学は、2020（令和2）年度より3学部9学科体制となることは冒頭で触れた。その中の「教育人文学部」は、幼児教育学科・児童教育学科・心理学科・文芸文化学科の4学科から構成される（表1）。これまでと同様に「幼児教育学科」および「児童教育学科」を教職課程の軸にしつつ、「心理学科」と「文芸学科」が同じ枠組みになるという一つの傘の下に集まることで、相互に連携や協力体制を取りやすくなったといえるだろう。すなわち、教育支援の点から見れば、「心理学科」はスクールカウンセリングの充実やそのカウンセラーの養成において、文芸文化学科は上述した外国人児童への日本語教育などをサポートする指導者養成において連携が考えられる。したがって当該大学は、今後の社会の課題や要請に応じて、「チーム学校」時代の教育支援・協働に関わるカリキュラムを充実させ、そのような仕事にかかわる人物を輩出していける潜在性を大いに有していると言えるであろう。

この点をふまえると、前述した当該大学の「学校インターンシップ」は、従来の「児童教育学科」に所属する教職志望の学生に加えて、学校や社会教育に関わる支援職を志望する「心理学科」と「文芸学科」の学生も交えて実施してみてもはどうだろうかと思った。そうすることは、「学校インターンシップ」制度が教職志望の学生に効果的に機能しているように、「チーム学校」を展望した教育支援職への理解と職能育成への有効な手立ての一つになるのではないだろうか。

<引用参考文献およびWEBページ>

¹ 富山哲也（2019）：地域の教師を地域で育成する「学校インターンシップ」― 十文字学園女子大学におけるインターンシップ」の取組 ―、Synapse No.69：12.

² 十文字学園女子大学ホームページ、学科案内、幼児教育学科、概要（学びの特色とカリキュラム）、（<http://www.jumonji-u.ac.jp/department/infant/index.html>、参照日：2020年2月21日）

³ 十文字学園女子大学ホームページ、学科案内、児童教育学科、概要（学びの特色とカリキュラム）、（<http://www.jumonji-u.ac.jp/department/child/outline/index.html>、参照日：2020年2月21日）

⁴ 前掲書¹、12-14.